



第 68 号
 発行
 小松同窓会本部
 〒923-8646
 小松市丸内町二ノ丸15
 石川県立小松高等学校内
 天守台編集委員会
 TEL (0761) 21-6330

昨年暮れの衆議院議員選挙では、大変
 厳しい戦いでしたが5期目の当選を果た
 すことができました。いつもながら同窓
 会の皆様のご支援に心から感謝申し上
 げます。

2024年元旦、能登半島を震源地と
 した未曾有の大震災によって人々の暮
 らしは一変することとなりました。被災
 され犠牲となられた皆様に心よりのお
 悔やみとお見舞いを申し上げます。“ふ
 るさと議員”を信条としてきた私にとっ
 て、昨年は能登半島地震からの復旧・復
 興に奔走する1年でもありました。思え



ば12年前、衆院選に初出馬したきっかけ
 が東日本大震災でした。高校担任の新北
 欣悟先生からの勧めで東北大学に進学
 した私は、卒業後一人で輸入ビジネスを
 起業。仙台のみならず、東北地方全域に
 ネットワークを拡げ、そこで培った多く
 の仲間や青年経済人とのつながりの中
 で、いつしか東北を第2のふるさととし
 て大切にしてきました。

その後、ふるさと小松に戻った私は
 2011年に日本列島を震撼させた東
 日本大震災で自分の青春の思い出も津
 波で流されたような悲しみを感ずるな

ら、連絡のとれない友人や知人がいる中
 で、発災直後から連日のように現地に赴
 き、瓦礫運搬や汚泥除去、支援物資を届
 けるなどのボランティア活動を続けまし
 た。そこで行政の大切さと手法を実感し
 たことが、2012年の衆議院選挙に、
 政治経験もない無名の私が無謀ともい
 えるチャレンジを決断したきっかけとな
 りました。

今、私が国政を担うにあたってテーマ
 にしていることは「つなぐ力」ということ
 です。ふるさとと国、日本と世界、そして
 今を豊かな未来に等々、心と心、絆と絆

を確実につないでいかなくてはなりません。
 小松高校も偉大な歴史を先輩たちが
 つなぎ、今日の誇りある伝統が築かれて
 いるといつてよいでしょう。

私が初めて政府に入り、国土交通大臣
 政務官を拝命した時には、2013年か
 ら1年余り国土交通事務次官を務めら
 れた増田優一氏(高校22回)に多大なお
 力添えをいただきました。同級生で医師
 の加藤恵一君は不妊治療の第一人者とし
 て、テレビ番組「情熱大陸」に取り上げら
 れるなど脚光を浴びる存在。彼の世界的
 な活躍ぶりには、私も大いに奮い立たさ

れます。3年に1度開催されている関東
 小松同窓会では、関東を中心に全国で
 小松高校同窓生が活躍されていること
 を再認識する機会となり刺激を受けて
 います。帝国ホテル元社長の犬丸徹三
 氏が旧制小松中学校出身であるとい
 うご縁から、帝国ホテルでの開催案が持ち
 上がった時には、ホテル側に働きかけ
 2018年より同ホテルでの開催が再
 開されました。

今小松高校はスーパーサイエンス
 クールに認定されていますが、2021
 年に第4期目の指定を受ける際に、4期
 目のハードルは高いと聞いていた私は
 「学力と生徒募集に関わる重要事項であ
 る」と、当時の大臣や文部科学省高等教
 育局に強く訴え、母校の取り組みを後押
 しましたこともありました。

部活動として情熱を注いだバレー
 ボールや応援団長を務めた体育祭、数々
 の学校行事などは単なる思い出ではな
 く、大切な友をつなぐ絆そのものです。
 私が人生を歩むうえで「つなぐ力」は
 母校とともに生きていけると言っても過
 言ではありません。これからの地域や国
 を担うのは、若い世代の皆さんの「つな
 ぐ力」です。将来に夢や目標をもって、つ
 なぐ志を実現できるように環境を整え
 ることが我々の世代の責務であり政治
 の役割だと思います。その責任の一端を
 背負う立場の私は、これからも母校の生
 徒の頑張りを支えるためにも、同窓生の
 皆様の活躍を心の支えとして誠心誠意、
 全力で取り組んで参ります。

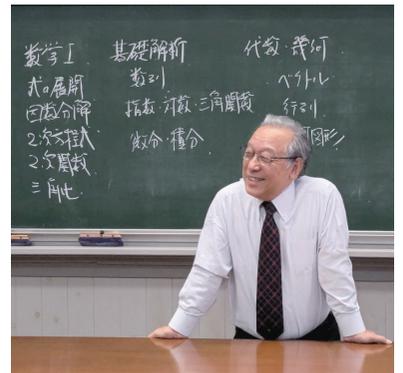
ホームスクール カミングデー

山木 泉 (高35回)



11月2日大雨の中ピソクの館には53名の35回生が集合。階段教室はまるで学生時代の懐かしい教室となり、私達は1-6H、2-4Hの担任、野球部顧問や部長を務められた伊藤充先生を講師にお迎えしました。まず和田学小松同窓会会長、米口一彦小松高校校長(高35回)よりご挨拶を頂き、講義が始まりました。

伊藤先生は「教育としての数学」を学べる大学を選択され、数学を生み出した人達の苦労話を学び教育実習の面白さが後押しとなり教育者として



なりました。そんな先生の情熱に数学の虜になった生徒が私達の中にも多数いたのではないのでしょうか。

そして卒業後、盲学校の勤務を経た、5年目に本校に赴任されました。先生は私達の3年時には本格的に野球に打ち込むため担任を外れ野球部部長となり、毎試合アナウンスやスコア付けもされ、熱心なOB会や保護者会の応援は、県外遠征のバス代も赤字にしなかったほどだったとの事です。(当時の部費一万元は高額だった)その5年後には晴れて甲子園に出場!その後卒業生と語る会で講師担当の生徒に「あ、甲子園に連れて行ってくれた先生だ!」と言われ「私も満更ではないな」と嬉しそうに語られています。続いて教室がどっと沸いたお話を紹介します。

- ◎35回生在学中は30歳だった
- ◎あのオリジナルはもう使っていないよ (懐かしい恐怖の問題集)
- ◎クラスで茶髪やパーマはたくさんいたけど多少の違反は見逃した(だから自主性が育った?)

◎学年キャンプの行先はいつも物静かなS先生が乗鞍の景色に感動して決まった

◎H先生がキャンプの経費を抑える為に観光バスではない様々な色の上りバスを頼み、帰路では煙が出ていたバスもあった又、大きい釜を九つ準備していた

◎当時体育祭では4団それぞれ4段のやぐらを先生と生徒と組んでいた等々、若き先生方がおおらかに高校生活を見守っていた出来事を聞かせて下さいました。

先生は高校37年、高野連理事5年、金沢工業大学13年を務められました。今は原点に立ち戻り月二、三回東京へ行き音楽会やお芝居を楽しまれているとのこと。

校歌斉唱の後、福島知朗同窓会副会長より閉会の挨拶を頂きました。同窓会の皆様や久間真一先生(高35回)にも大変お世話になり感謝致しております。

同日のついで開催の同窓会も伊藤先生にご臨席頂きました。二次会では先生の大好きな竹内まりやさんの「人生の扉も愛聴させて頂きました。翌日は一転晴天の中、有志16名がゴルフコンペで楽しいひと時を過ごしたようです。

先生から「今充実しているのは、乗り越えたことは全部正しい。だから選択したことも正しかったのだよ」

35回の皆さん、元気で次回の同窓会にもお会いし、雨で叶わなかった天守台にも上りましょう。



還暦、悠々と仕切り直し!

関東小松同窓会報告

北山 智章(高44回)
道券 一也(高31回)



2024年8月18日(日)、帝国ホテル東京『孔雀の間』にて、第15回関東小松同窓会総会・懇親会が行われました。コロナ禍のため6年ぶりの開催です。

朝野勇次郎会長(高21回)の号令のもと、幹部・学年幹事団による地道な努力が功を奏し、石川県からも大勢がけつけて頂きまして当日は約420名もの方に参加頂きました。

今回は、皆様に心地よい時間を過ごして頂くこと参加者全員分の座席を用意し、懇親を深める工夫として、胸につける名札には出身中学を記載しました。



来賓として、小松高等学校校長の米口一彦様(高35回)、衆議院議員の佐々木紀様(高45回)、能美市長の井出敏明様(高33回)、小松市長の宮橋勝栄様(高50回)、小松同窓会会長の和田学様(高33回)、富山小松同窓会会長の松田光司様(高33回)、関西小松同窓会会長の中山雄一様(高21回)にお越し頂きました。

定刻通り12時に総会が開始され、冒頭で能登半島地震犠牲者及び物故会員の方への哀悼の意を表すとともに、朝野会長より、コロナ禍を乗り越え開催に尽力した方々への感謝を込めた開会挨拶が行われました。

続いて、同窓会活動報告、新役員紹介・承認が行われました。選任された角英夫新会長は「能登復興や新幹



線延伸など重要な時期となり、郷里と関東の連携がより深まるよう努力したい」と挨拶しました。その後、会則改訂の報告、会計報告が行われ、総会は無事閉会致しました。

引き続き、懇親会が行われ、小松マテール元会長の中山賢一様(高12回)による講演、来賓の方々のご紹介、佐々木代議士による祝辞に続きまして、米口校長より高校の現状についてご紹介を頂いたのち乾杯の発声が行われ、一気に場は賑やかになりました。

久しぶりの再会を喜ぶ声、意外な出会いに驚く声等も聞かれ、とても和やかな雰囲気の中進行了しました。

ステージの巨大スクリーンでは、「小松高校の現況紹介ビデオ」と「小松高校グラフイティ 昭和61年の夏 小松高校野球部 甲子園への挑戦」が放映されました。今回は小松大谷高校が、甲子園で素晴らしい戦いを見せてくれましたが、今度は我が母校が甲子園で活躍することを期待したいと思います。

参加者全員が当選する「ふるさと抽選会」も行われ、各方面でご活躍されている卒業生の方々から提供頂きました数々の豪華賞品が、学年幹事団によって配布されました。

会も終盤となり、毎回恒例となった校歌斉唱の後、次回幹事団(高47〜52回生)が登壇し松村新幹事長の決意

表明が行われました。最後に和田小松同窓会会長が新旧会長を壇上に招き、朝野会長への感謝、角新会長への期待を込めた閉会の辞を述べられ、2時間にわたる懇親会が無事終了致しました。

関東小松同窓会幹部、および学年幹事団の強力な結束力により、大掛かりな会を無事終了出来ました。広告や商品の協賛を頂きました同窓生の皆様、そして参加者の皆様、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、多くの皆さまから能登半島地震の義援金を頂きまして、後日、日本赤十字社宛に振込を致しました。

今回は2027年の開催となります。関東小松同窓会では、新役員幹事団一丸となって、準備に邁進する所存です。次回も皆様のご支援を何とぞ宜しくお願い申し上げます。

関東小松同窓会 役員			11月9日 2024年
役職	氏名	卒業回	
名誉会長	朝野勇次郎	(21回)	
会長	角英夫	(31回)	
副会長	森下宏明	(31回)	
副会長	黒澤美樹	(31回)	
副会長	道券一也	(31回)	事務局長
副会長	松浦洋佳	(44回)	
副会長	加藤秀一郎	(44回)	
副会長	北山智章	(44回)	会計
監事	菅原聡子	(29回)	

二・二会同窓会今昔

★中山美保子(高22回)小松在住

甲子園初出場の昭和六十一年夏に奇しくも第二回が開催される。

出初式に使う纏を甲子園応援に持ち込み同窓会への寄付金パワーを見せつけた世話人達が勢ぞろいでお出迎え。「幹事はみな、応援シャツ着いや」「エ、折角めかしこんで来たのに、いやや」。中、二八名の学友が山代グラウンドホテルへ集う。予算オーバーで幹事が青くなる中、おかみ(学友)の采配で飲み代を踏み倒すことにも成功したとか！第四回は、平成十一年夏、創立百周年の年、加賀八幡梅八での開催、第五回、第六回は山代温泉葉渡利へと続いた。第七回はホームスクールカミングデイで遠暦を迎えた私達は、記念館で森田昌子先生の講義を拝聴し、安宅まつ家で学友の料理に舌鼓を打った。第九回は二年前、世界を震撼させたコロナの収束を待つて、ワクチン接種を条件とする苦肉の策でお泊り会を実現した。

第十回の今年粟津のとやで五十名参加。二・二会長も初代岩倉成利君から二代東野義信君へ、今回三代林幸樹君へと引き継がれた。「おーい！会費もろが忘れんな！」「そやそや」と初代から会計担当は山本澄子さん。この方たちの尽力で青春にタイムスリップできる会が長く続いてきた(感謝)。さて、一月能登半島地震で甚大な被害を負った石川県。珠洲能登島、小松の三大トライアスロン大会の一つ(小松市)が唯一開催にこぎつけ、その記念タオルを学友から進呈され共に能登の復興を願う一幕もあり、またの再会を願う。

★新井(吉田)陽子(高22回)京都在住

心待ちに出席した同窓会。五十数年振りのブランクがあっても一瞬にして、高校時代に戻れる楽しい時間が過ぎました。

しかし、今回、同窓会直前に私自身が癌に侵されていることが分かり、話が暗くなるのでそのことは伏せておりました。京都に帰りの奥に引っかかっていたので、高校時代からの仲良しグループに「Zで素直に打ち明けると、皆から本当に心熱くなる力強い言葉をもらい、高校時代からの熱い友情に涙がでました。私にはいちばん大切な高校時代からの素晴らしい友がいることに乾杯です。同窓会のお世話をしてくださった皆さんに感謝です。

★高木 和代(高22回)ハワイ在住

同窓会に出るのは今回が二回目、三回目？ハワイに引越した後に案内を頂きましたが、コロナが始まり、延期となり……今回ようやく参加できたわけです。今回参加を決めたのは、自分の歳が何と七十三歳になり、行くのなら一番若い、今だ！と思っただけです。同窓会に行ってみてまず驚いたのは見ただけでは誰だかわからない人が多かったこと(笑)、また亡くなられた方が多いのに驚きました。でも演劇部だった頃の話や、その頃撮った写真を見せて頂いて、とても懐かしかったです。夜もゆつくりとみんなと過ごすことができ、楽しい同窓会でした。できれば次回も参加したいですね。

★塚田(宮田)京子(高22回)旭川在住

「もう七十代、まだ七十代」を行ったり来たりの日々を過ごしています。十月に

八年ぶりの同窓会

川場 郁美(高30回)

「本日(二〇二四年八月二六日)司会を務めさせていただきますのは、波佐尾尾美、浅村起嘉です。」

同窓会が始まりました。最初は、これまでに亡くなった同級生に哀悼を込めて黙祷です。出席された三名の先生方紹介の後、乾杯発声。梶谷清裕さんが学ランを着て場を盛り上げます。再会に喜び合っていた皆さんがさらにパワーアップしていきます。

「最後まで、楽しんでいただけるように。」会計係の三由充宏さんが現地取材までして作った小松高校クイズ、例「三人の銅像について、目が二重の人は何人？」やトークくじ、準備はしましたが、そんな不安は吹き飛びました。写真タイムも盛り上がり、校歌斉唱、北武志さんの挨拶で締めとなりました。

二次会も終わるころ、一人の男性が隣の男性について、「優れた大型電池の研究開発に取り組んできた」と、私たちに、分かりやすく熱く語り始めました。まるで青年が夢の実現に向けての過程を語るかのように、クラスメイトを称えるのです。さらに、もう一人の男性とともに、研究には、担任の先生の仕込みが……と話し出しました。話のメンバーは、私以外小松を離れている人たちでしたが、高校周辺の変化や小松(ふるさと)に対する想いに話題が進んだり、国内外の街歩きを楽しさを語り合ったりと、心地良い刺激となりました。

今回の同窓会は、一人でも多くの人に連絡を届けることも、目標にしました。八年前の案内発送より、郵便物が届かな





い方が六十二名いました。この方々には、二〇一九年のホームスクールカミングデーの案内も届いておらず、ずっと心苦しく思っていました。縁あって一緒に学んだ仲間ですから、参加には事情があっても、お知らせは届けたいと思っていました。しかし、当時は仕事で忙しく、毎日がやっこの日々でしたから、同窓会関係のことは事務的にこなすだけで精一杯でした。そこで、五月より、出身中学校関係者や仲良かった人を頼りとし、連絡先を求めました。また、世話人の情報をもとにネット検索すると、勤務先のホームページに経営者や役員・管理職等として名前が載っており、失礼ながら「30回卒業生の同窓会事務局」として連絡させていただ

た方も多いです。おかげで、二十名以上の連絡先が分かりました。また、八月十八日、リアルタイムで送られてきた関東小松の参加者名簿に、連絡先不明の人を見つけた。その場で連絡してもらいました。さらに、芋づる式に数名の連絡先が分かるなど、小松高校同窓会のネットワークの凄さを改めて知ることになりました。今後は、誰もが気兼ねなく参加できるように、クラス単位の集まりをする動きも出てきました。

さて、私たち高校30回卒業生にとっては、「コロナ禍前後八年間が還暦前後に当たります。その間、一言では語りつくせない様々な出来事が、それぞれにありました。経営者や専門職としての取組み、退職、新たな仕事、まだ現役、仕事ができる間ずっと現役、様々です。町内や市のボランティアとしての活動、介護、子どもの独立、そして、私たち自身や家族の健康問題、さらに、想像を絶する洪水や地震等々の自然災害。それらは、単発ではなく複雑に絡み合っており、私たちが同窓生にやってきました。喜びあり、苦労あり、悲しみもありです。そんな私たちの人生への活力となるのが同窓会であり、温かく見守ってくれるのがそのメンバーであるように思います。

※同窓会当日の地震復興への募金79,361円は石川県共同募金会を通じて送付しました。

高校50回生同窓会の報告

常任理事 正木 利憲 (高50回)

高校卒業から26年、また前回開催から14年の節目に、11月3日(日祝)にアパ小松グランドホテルにて第50回生同窓

会を開催しました。天気の移り変わりが激しい時期と重なりましたが、当日は幸運にも秋晴れとなり、同窓会の開催を応援してくれているようでした。

受付開始とともに「久しぶり!」「元気」といったかゝるハイテンションな声を響かせながら懐かしい顔ぶれが続々と来場され、開会前からロビーは再会を喜ぶ姿であふれました。出席者も案内はがきに加え、SNS等を活用し広く呼びかけたことで、県外から18名、恩師6名を含み合計76名となりました。

司会の宮橋勝栄さんの開会のアナウンスの後、恩師を代表して中川素子先生に乾杯のご発声をいただきました。歓談に入る。高校時代の思い出話から現在の仕事や家庭の話まで、会場のいたる所で会話に大きな華が咲き始め、ステージ上では恩師を囲んだ集合写真の撮影やご自身の近況報告タイムも行われるなど、会場は大いに盛り上がりました。

同窓会は大盛況のうちに2時間程度で中締めとなりましたが、久しぶりの再会で話し足りない方も多く、2次会の出欠確認を行ったところなんと50名もの方から参加の回答がありました。2次会ではホテルでの雰囲気とはまた違った熱気に満ちあふれ、時間を忘れて深夜まで会話やお酒を楽しみました。

肩を並べて学び、クラブ活動に励んだ高校時代から長い年月を経て、全国各地の様々なフィールドで成長し活躍している50回生が再会する場を創出できたことは、本当に良かったと感じています。高校時代は接点の無かった方とも新たに交流でき、素晴らしい仲間が多くなることをあらためて実感できたことで、お互いの刺激や誇りになったのではないかと思います。また、都合が悪く欠席となっ

た方々とも出欠のやり取りを通じて繋がることのできる、私たち50回生のネットワークがさらに広く、そして強く再構成されたと感じています。

今回の開催にあたって、私を含め県内在住の9名で幹事団を結成し、調整と準備を行いました。公私ともに多忙なメンバーであり、8月の準備開始から11月の開催までともタイトなスケジュールでしたが、各自が積極的に取り組んでいただいたことで、大成功のうちに閉会となりました。出席者からは「思い切った来てよかった」、「次回の開催はいつ?」の声をはじめ、ふるさと小松には力強いメンバーが頭をしていることへの安堵の声も聞かれました。幹事団のみなさんには、あらためて感謝の意を表したいと思います。



米国内科学会 最高栄誉会員になつて

元雄 良治(高26回)

私は小松高校理数科を昭和49年に卒業し、東京医科歯科大学(現東京科学大学)医学部に進学し、昭和55年に卒業後、金沢大学第一内科に入局しました。昭和59年から2年間米国テキサス州ダラスのワドレー研究所に留学しました。昭和63年から17年間金沢大学がん研究所、平成17年から16年間金沢医科大学に所属しました。令和3年に定年退職し、名誉教授の称号を授与され、小松ソフィア病院に2年半勤務した後、令和5年から現在の福井県済生会病院内科に勤務しています。令和6年に米国内科学会の最高栄誉会員に推挙されましたので、それについて書かせて頂きます。

令和6年4月に米国ボストンで開催された米国内科学会の初日の午後6時から表彰式がありました。一人ひとりの名前が読み上げられると、写真のように正面の大スクリーンに顔写真が映写され、名前の下に「Komatsu, Japan」と書かれ



ていたのは嬉しかったです。この受賞は日本人として9人目でした。米国以外で初めて日本支部が誕生したので、その発足に関与したことが、医学英語教育、石川県内の中学・高校でのがん教育、そして漢方医学を現代医療に活用し、その成果を英語論文で発表してきたことなどが評価されました。私は平成10年頃まで日本内科学会の各種委員会で活動していましたが、平成12年にサンディエゴで米国内科学会の上級会員に昇格しました。それから24年後に最高栄誉会員に推挙されたことは感無量でした。

高校時代に医学の道を志し、医学部で人生の師である萬年 甫(まんねん はじめ)先生に出会い、語学(英語とフランス語)の重要性と人間の全体を診る内科学の奥深さを知りました。医師になった当初から消化器病学を中心に広く内科学の研鑽を積み、内科専門医をはじめ関連の専門医を取得しましたが、平成元年から日本の伝統医学である漢方医学を学び、その専門医も取得しました。そして東西医学の融合をめざして、現在も現役の医師として毎日若い医師の息吹に触れながら、学びを継続しています。

そしてこれまでの経験や知識を次世代に伝えることも重要な仕事と考え、医学教育にも関与し、毎年4月には金沢大学医学類の新入生に「オスラー博士の生涯から学ぶ医学人生」と

いう医学入門の講義を担当しています。ウィリアム・オスラー博士は20世紀初頭にアメリカ・イギリスで活躍した臨床医学の父であり、日野原重明先生の心の師でもあります。これからもこれまでお世話になった方々の恩を忘れず、私にできることを精一杯続けていきたいと念じています。この度はこのような寄稿の機会を頂いたことを心より感謝致します。現在の私の基礎を作って頂いた小松高校の益々の発展を祈念致します。



小松同窓会総会報告

副会長 田上好裕(高38回)

令和6年7月23日、サイエンスビルズこまつに於いて、300名弱の同窓生が出席し今年度の小松同窓会総会が行われました。1月に予定されていた新年会は能登半島地震の影響で中止になっており、約1年ぶりに同窓生が集う会になりました。学校総務課の計らいで開会前から会場内に最新の学校紹介DVDを流していただき、「ずいぶん変わったなあ」という声が始まる前から聞こえてきました。

定刻となり、今年度の幹事学年である高校49回の鈴木謙介さん、金田史恵さんの司会でスタートし、まず山田勝裕副会長(高26回)から開会の言葉がありました。

物故者追悼の黙祷を行った後、和田学小松同窓会会長(高33回)より挨拶があり、今年が創立125年にあたり、130周年に向けた所謂折り返し年度である旨のお話がありました。

米口一彦校長(高35回)からは日頃の同窓会からの物心両面にわたる支援へのお礼の言葉とともに学校の様子を各部活動の成績も交えてお話しいただきました。

続いて来賓として衆議院議員の佐々木紀さん(高45回)、県議会議員の福村章さん(高9回)、八田知子さ





人(高33回)、小松実さん(高35回)、亀田豊さん(高46回)、竹田良平さん(高60回)、関東同窓会会長である朝野勇次郎さん(高21回)、関西同窓会会長の中山雄二さん(高21回)、金沢同窓会会長の中田浩一さん(高31回)富山同窓会会長の松田光司さん(高33回)が紹介されました。

総会議案審議は令和5年度の決算、6年度の予算、新役員を含む6つの議案すべて原案通り承認されました。新しく副会長に就任した高48回の村井晋平さん、高50回の駒口桃子さん、そして昨年から事務局を担当している高50回の谷口奈穂子さんから挨拶をいただきました。

この後、佐々木紀代議士より乾杯の発声があり、懇親会がスタートしました。開宴と同時に席を行き交い、沢山の笑顔と久しぶりの再会を喜び合

う光景が見られました。途中大先輩である高校3回の大土外男さんのリードによる小松中学校歌の大合唱もあつたりして、例年にも増して大変賑やかな懇親会となりました。

終盤には幹事引継ぎ式が行われ、高48回代表の中島誠さん、高49回代表の平島慎也さんからそれぞれ挨拶をいただきました。

恒例の校歌斉唱では、県女のワンコーラスがCDで流れた後、小松高校校歌を参加者全員が立ち上がり、声高らかに歌い上げました。

最後に新しく金沢同窓会会長になられた中田浩一さんより就任のご挨拶をいただいた後、朝野勇次郎関東同窓会会長より本年8月18日(日)に予定されている関東同窓会総会の案内と共に万歳三唱があり、和やかな雰囲気の中、総会・懇親会が閉じられました。

今回は受付テーブルで能登半島地震に対する義援金箱を準備したところ、短時間に

令和5年度 小松同窓会 [会計決算書]

収入額.....3,956,150円
 支出額.....3,467,080円
 翌年度繰越額.....489,070円
 (単位:円)

◆収入の部

科目	予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	摘要
会費	3,120,000	3,120,000	0	令和4年度卒業生 312人×10,000円(1名入会無し)
繰越金	311,311	311,311	0	
同窓会運営基金	400,000	400,000	0	青雲の小径継続維持管理費(214,500円)等
雑収入	124,889	124,839	△ 50	令和4年度卒業生記念館等管理費312人×400円、預金利息
計	3,956,200	3,956,150	△ 50	

◆支出の部

科目	予算額(A)	決算額(B)	差引額(A-B)	摘要
総会費	120,000	103,328	16,672	総会諸費用 等
卒業記念品	350,000	396,550	△ 46,550	卒業記念品、チラシ代
通信事務費	150,000	104,878	45,122	各諸行事開催案内、各委員会・理事会等案内送料 等
渉外費	200,000	118,668	81,332	事務局電話料、新聞広告 等
業務委託料	1,225,320	1,238,660	△ 13,340	事務局業務年間委託料
会報事業費	370,000	355,552	14,448	会報「天守台」65・66号発行経費
記念館事業費	260,000	163,838	96,162	記念館特別展開催経費 等
記念館管理費	200,000	200,000	0	大規模修繕等記念館管理費積立
会合事業費	260,000	235,767	24,233	理事会・幹事会経費 等
青雲の小径再生事業費	214,500	214,500	0	青雲の小径維持管理費
一般事業費	420,000	205,107	214,893	事務局備品・消耗品・ホームスクールカミングデイ開催経費等
雑費	86,380	119,232	△ 32,852	慶弔費、小松同窓会同期会開催補助金
予備費	100,000	11,000	89,000	記念館ソファ購入代
計	3,956,200	3,467,080	489,120	

も関わらず132,958円が集まりました。7月31日に石川県宛てに小松同窓会の名前で振込み手続きを済ませております。

幹事学年である49回期と次回幹事学年である50回期の皆さまにおかれましては早い時間から集まっていたいただき、受付、司会、懇親会サポート等、大変お世話をいただきました。有難うございました。

令和6年度 大会出場・成績一覧表

★全国高校総体・総文に出場した部・同好会 …… 放送部、かるた部

部・同好会名	大会成績	部・同好会名	大会成績	
運動部	陸上 【石川県高等学校総合体育大会】 男子 400m …… 4位【北信越大会出場】 女子 400m …… 5位【北信越大会出場】 800m …… 6位【北信越大会出場】 400mH …… 4位【北信越大会出場】 4×400mR …… 5位【北信越大会出場】 【石川県高等学校新人体育大会】 女子 800m …… 4位【北信越大会出場】 800m …… 5位【北信越大会出場】 3000m …… 5位【北信越大会出場】 400mH …… 4位【北信越大会出場】 4×400mR …… 2位【北信越大会出場】 【石川県高等学校駅伝競走大会】 女子 …… 3位【北信越大会出場】	野 球 【北信越地区高等学校野球石川大会】 2回戦 小松 4-2 金沢龍谷 3回戦 小松 5-6 小松大谷 【全国高等学校野球選手権石川大会】 2回戦 小松 0-6 金沢 【北信越地区高等学校野球石川大会】 1回戦 小松 26-1 七尾東雲 2回戦 小松 10-5 金沢龍谷 3回戦 小松 1-12 金沢 【石川県高等学校野球1年生大会】 予選 小松 2-0 小松明峰 2回戦 小松 7-0 金沢龍谷 3回戦 小松 1-16 小松大谷 ベスト8		
			水 泳 【石川県高等学校総合体育大会水泳競技大会】 男子 200m自由形 …… 4位【北信越大会出場】 400m自由形 …… 6位【北信越大会出場】 【北信越高等学校総合体育大会水泳競技大会】 男子 200m自由形 …… 出場 400m自由形 …… 出場	カヌー 【北信越高等学校体育大会】 男子K-1 …… 出場 男子K-2 …… 第5位 男子K-4 …… 第3位 女子WC-1 …… 第2位
			弓 道 【北信越高等学校体育大会】 団体 男子の部 …… 参加	少林寺拳法 【北信越高等学校体育大会少林寺拳法大会】 男子単独演武 …… 出場 男子組演武 …… 5位
			ボート 【中部高校選抜大会】 男子 舵手付きクォドルブル 小松高校A 出場 女子 舵手付きクォドルブル …… 小松高校A 出場 女子 ダブルスカル …… 小松高校A 出場	理 化 【第48回全国高等学校総合文化祭 自然科学部門】 物理部門 …… 出場 「ミルククラウンの粒の個数を決める要因について」
			バドミントン 【石川県高等学校総合体育大会】 女子 団体 …… ベスト4 【北信越高等学校バドミントン競技大会】 女子 団体 …… 出場	放 送 【NHK杯全国高校放送コンテスト】 朗読部門 …… 出場
			ソフトテニス 【北信越高等学校体育大会】 男子 個人戦 …… 出場	文 化 部 【第46回全国高等学校総合文化祭(岐阜大会) 競技かるた部門石川県代表選手選考会】 全国大会石川県代表選手として選出 【小倉百人一首競技かるた 第46回全国高等学校選手権大会】 D級 …… 優勝 D級 …… 3位
			ハンド 【北信越高等学校総合体育大会 第60回北信越高等学校ハンドボール選手権大会】 男子 …… 出場	天文・数学 【第48回全国高等学校総合文化祭自然科学部門】 地学部門 …… 出場 「気温変化と曇気楼の見え方の関係」

学校職員
 委 副 委
 員 員 員
 長 長 長
 松 荻 細 宮 前 野 山 東
 田 野 川 浦 田 田 口
 知 千 誠 弥 洋 和 次
 隆 隆 鶴 治 生 子 博 郎
 (高 (高 (高 (高 (高 (高
 30 35 33 26 12 34 22
 回 頭 回 回 回 回 回 回)

「天守台」編集委員会

編集室だより

明けましておめでとうございます。
 68号年頭所感は衆議院議員の佐々木さん(45回)、6面に医師の元雄さん(26回)に寄稿頂きました、より一層のご活躍を祈願申し上げます。
 また小松同窓会、関東小松同窓会報告、22回、30回、35回、50回同窓会報告をご高覧下さい。
 なお同窓会事務局に谷口さん(50回)が新しく着任しています。
 130周年に向けて活躍を期待します。(東)

同窓会LINEコード

[同窓会本部] TEL: 0761-21-6330
 メール: komatsudousoukai@gmail.com
 ご住所の変更などございましたら、事務局までご連絡いただきますよう、よろしく願いいたします。

